

財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

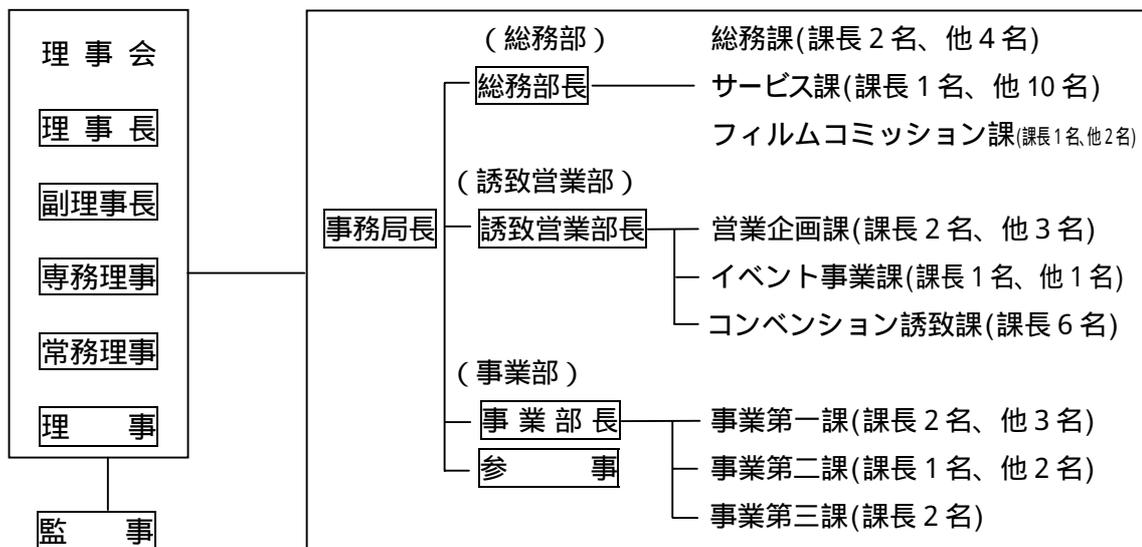
当協会は、内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興を図り、もってわが国経済の健全な発展に寄与することを目的に昭和 51 年に通商産業大臣認可で設立され、平成 17 年 7 月に(財)北九州コンベンションビューローの機能を統合し、名称を(財)西日本産業貿易コンベンション協会に変更しました。

現在は、昭和 52 年に建設された西日本総合展示場(現本館)と北九州国際展示場(平成 10 年 4 月に市が設置)及び北九州国際会議場(平成 2 年 10 月に市が設置)を一体的に管理・運営しながら、各種見本市・展示会の開催や会議・大会等の誘致をしています。

- | | |
|---------|---|
| 〔設 立〕 | 昭和 51 年 3 月 25 日 |
| 〔所 在 地〕 | 北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号
Tel 093 - 511 - 6848 |
| 〔目 的〕 | 内外の工業製品等の展示紹介を通じて、西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、北九州市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資し、もってわが国経済の健全な発展に寄与する。 |
| 〔事 業〕 | (1) 内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援
(2) 各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援
(3) 前 2 号の事業の用に供する施設の管理及び運営
(4) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 〔基本財産〕 | 2,477,000 千円
<うち本市出捐額 1,750,000 千円(70.6%)> |
| 〔決算期〕 | 毎年 3 月 31 日 |
| 〔主務官庁〕 | 経済産業省、九州運輸局 |
| 〔本市所管〕 | 産業学術振興局地域産業部貿易振興課 (Tel 093 - 551 - 3605) |

法人の組織

1 機構図



2 役職員数

	人数	人数の内訳			平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	22人	1人	0人	21人	61歳
職員	48人	14人	0人	34人	41歳

3 役員名

〔理事長〕 重淵 雅敏

〔副理事長〕 麻生 渡、北橋 健治、藤井 康雄

〔専務理事〕 安藤 英和

〔常務理事〕 村上 英治

〔理事〕 古川 康、金子 原二郎、潮谷 義子、広瀬 勝貞、東国原 英夫、伊藤 祐一郎、仲井眞 弘多、二井 関成、鎌田 迪貞、吉川 卓志、田尻 英幹、林田 正義、中柴 崇

〔監事〕 疋田 慶一、光井 敏博、鈴木 元

主な事業実績（平成18年度）

1 見本市・展示会事業

当協会は、西日本地域の産業の高度化と貿易の振興を目的に、九州・山口地域の行政機関等の施策・方針と連動した環境、エネルギー、福祉、ITなどをテーマとした見本市・展示会等の企画・開催と誘致・支援活動を実行した。また、九州地域の経済団体・大学・行政機関等と連携するなど産学官の連携事業にも積極的に取り組んだ。

〔1〕主催・共催事業

1) 当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

西日本地域における産業・貿易の振興を目的として、当協会は次の見本市・展示会を企画、開催した。

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア 2006	H18年 5月3日～7日	56,921人	97社・団体
第46回西日本総合機械展	5月25日 ～27日	17,789人	59社・団体
第32回ふくおか産業技術振興展			31社・団体
第28回西日本陶磁器フェスタ	9月15日 ～19日	42,542人	179社
アジア産業交流フェア 2006	10月25日 ～27日	15,185人	41社・団体
中小企業テクノフェア IN九州 2006			53社・団体
九州・国際テクノフェア ICT 2006			126社・団体
P.P.C. 2006 第8回西日本国際福祉機器展	11月9日 ～11日	29,053人	110社・団体
エコ・テクノ 2006	11月20日 ～23日	32,183人	284社・団体
福岡水素エネルギー社会近未来展 2006			
第8回手づくり市場 in 北九州	12月2日 ～3日	10,151人	156組・団体
第26回西日本トータルリビングショー	H19年 3月16日 ～18日	14,854人	80社・団体
合計	12事業	218,678人	1,216社・他

2) セミナー・シンポジウム等の併催

1)に掲げる当協会の主催・共催事業と並行して、関連するセミナー・シンポジウム等を開催した。

* テーマ数 70 テーマ
* 総参加者数 6,582 名

〔2〕誘致・支援事業

先端技術であるナノテク、ロボット関連事業、自動車部品関係をはじめとする展示会や展示場を活用した販回り事業などの誘致や、関係団体への支援など積極的に誘致・支援活動を展開した。

* 総事業数 5 事業
* 総入場者数 70,051 人

〔3〕関係団体との連携事業

1) 主催事業における産学官連携

関係行政機関、大学、その他関係団体と連携を図り、主催事業を実施した。

2) 九州半導体イノベーション協議会

九州シリコン・クラスター計画の組織母体である九州半導体イノベーション協議会からの受託事業として、セミコン・ジャパン 2006 へ出展した。

3) 九州経済国際化推進機構

事務局の一員として機構の運営を支援した。また、九州経済産業局が主催する「ASIA LINK フォーラム」を北九州国際会議場で開催した。

4) 産業振興団体

九州地域の経済団体等と連携し、地域に根ざした各種の見本市・展示会等を共催事業として実施した。

5) 韓国政府機関・関連業界

ア 第 13 回九州(日本)・韓国経済交流会議の開催

九州経済産業局の所管する「第 13 回九州(日本)・韓国経済交流会議」を事務局として開催した。

イ 主催事業における韓国企業との連携

主催事業名	韓国企業出展内容	連携の団体等
西日本インポートフェア	4 社 8 小間	韓国優良製品振興協会
アジア産業交流フェア	19 社・団体 19 小間	韓日産業・技術協力財団
中小企業テクノフェア I N九州 2006	1 団体 1 小間	韓国中小企業振興公団

6) 大学

大学の実施する各事業と連携し、関連する展示会、学会・大会等の誘致を促進した。

2) 会議・大会等

都市間競争が激化する中、本市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める大型コンベンションを誘致するため、全国のキーパーソンに積極的かつ計画的に誘致・営業活動を

行うとともに主催者に対して様々な支援活動を行った結果、国際会議、大型イベント及び俳句結社の全国大会等の誘致を実現した。

また、トップクラスの俳人や棋士を招いて、「全国女性俳句大会」や「ハイビジョン将棋」等、特色ある自主事業を実施し、地域の文化向上を図った。

〔1〕主催・共催事業

北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した俳句、将棋、映画の上映等文化事業や異業種交流を目的とした事業など、小学生から年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

* 総事業数 4 事業

* 総入場者数 3,859 人

〔2〕誘致・支援事業

各都市間競争が激化する中で、国際会議や学会、大型のスポーツ大会等を着実に誘致するために、開催助成金などの制度を積極的に活用し、誘致活動を展開した。特に重点を置いた国際規模の学会・大会では、開催件数、参加者数ともに前年度を上回った。

1) 誘致結果

誘致件数及び参加者数の推移

区 分	国際	全国	その他	合計
誘致件数(件)	35	53	67	155
参加者数(人)	77,995	66,613	36,547	181,155

2) 誘致・支援活動の取り組み

ア 会議主催者への誘致活動

工学、環境、医学など北九州市の特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議、大型学会等の誘致を目指し、市内の大学(九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学、産業医科大学、九州歯科大学)や九州大学、山口大学などのキーパーソンを軸に誘致活動を行った。また、首都圏の学会事務局やPCO(プロフェッショナル・コンベンション・オーガナイザー)への営業も積極的に行うとともに、必要に応じて北九州市と連携した誘致活動を実施した。

イ 大会主催者への誘致活動

主に、スポーツ、文化などの各種団体や労働組合等に対し誘致活動を実施した。首都圏や福岡市の団体事務局にも積極的に訪問し、九州規模以上の大型大会誘致を実現した。

また、北九州市体育協会や福岡県体育協会などスポーツ競技団体のキーパーソンを対象に情報交換会を開催し45人の参加を得た。

ウ 東アジア地区への誘致活動(平成18年度新規事業)

東アジア地区の研究者、大学教授等とネットワークを持つ地元工学系の大学・大学院教授(キーパーソン)を通じ、国際コンベンションの誘致活動を行った。ターゲット

は台湾、中国、韓国方面とし、地元教授が出席する学会・会議に同行し、現地キーパーソン、会議参加者等に北九州市開催をPRした。

エ コンベンション助成金

平成6年度より北九州市コンベンション開催助成金制度を導入し、コンベンション誘致を積極的に展開してきた。

* 助成件数	63	件
* 助成金	44,880	千円

オ コンベンションボランティア

国際会議での語学応援、会場応援等で8件、延べ122人のボランティアが活動した。このうち、語学応援として「第32回全国語学教育学会年次国際大会」に延べ69人、スポーツの国際試合「ラグビー日本代表対トンガ代表戦」にも3人がトンガチームの通訳としてサポートした。

* 派遣件数	8	件
* 派遣人数	122	人

カ 誘致情報連絡会

市内主要コンベンション施設（当協会、メディアドーム、KIPRO）とホテル・旅行代理店など関連団体との誘致情報共有化を図った。

3 広報・宣伝活動

施設の利用促進や施設利用者のサービス向上及び見本市・展示会、会議・大会等各種コンベンションの誘致を積極的に図るため、ホームページの活用や機関誌の発行、新聞並びに業界紙等様々な媒体への広告掲載など効果的な広報・宣伝活動を行った。

〔1〕 広報・宣伝の充実

1) インターネットの活用

当協会のホームページにて、催事情報などを逐次更新し提供した。また、会場の図面等をダウンロードできるようにした。

2) 広報、宣伝ツールの充実

ア 機関誌「CO-」の発行

* CO-発行部数 6,000部/回 年2回

イ コンベンションカレンダーの作成と提供

市内で開催されるコンベンション情報を収集し、市や賛助会員等に情報提供を行った。

ウ 協会オフィシャルパンフレット

協会が管理する施設のパンフレットを2,000部増刷し、広く配布した。

エ 北九州空港常設広告板の設置

昨年度に引き続き、北九州空港ターミナルに電照広告を掲出し、協会施設のPRを行った。

3) 広報活動

主催事業、集客交流を創出するための販わい事業、主催者への集客支援として、新聞への広告掲載、TV・ラジオのスポット広告、JR主要駅やモノレール全駅へのポスター掲示、各雑誌・機関誌などパブリシティを活用した広報活動を実施した。

〔2〕コンベンション情報の発信

首都圏やアジア地域において、誘致促進を図るため下記の事業等を実施した。

1) 国際ミーティング・エキスポ(IME2006)への出展

日本で唯一のコンベンション関係展示会・トレードショーである「第16回国際ミーティング・エキスポ(IME2006)」に地元ホテルと共同出展し、来場したキーパーソンに北九州空港や本市のコンベンション施設・支援内容などを紹介、誘致活動を行った。

2) 海外コンベンション情報の収集と北九州市プロモーション活動

タイ国パタヤ市で開催されたアジア地域最大級の展示会である「第14回インセンティブ・トラベル&コンベンション、ミーティング・アジア(IT&CMA2006)」に出展し、オーガナイザー・旅行社22社と商談を行った。

〔3〕本市の強みを生かした取り組み

1) 俳句・吟行の誘致

「俳句のまち北九州」をめざして、平成5年より俳句誘致・支援に取り組んでおり、それにより広がった俳句結社・主宰とのネットワークを活用して大会・吟行の誘致活動を行った。

平成18年度は、大分県の結社「落」の全国大会、神戸市の結社「円虹」の全国大会などを誘致し、小倉祇園太鼓、関門地区など文化的資産などを巡る吟行会を支援した。

* 誘致件数 23 件

* 参加者数 5,620 人

2) JR九州等との連携

ア 立地環境を活かしたPR

JR小倉駅と連結した本施設の立地環境をPRするため、JR小倉駅・北九州主要駅(5駅)に常設掲示板を設置するとともに、JR九州及びJR西日本各駅に主催事業のポスター等を掲示し、市内外からの集客向上を図るためのネットワークづくりに取り組んだ。

イ イメージアップの取り組み

小型時刻表・名刺型時刻表へ展示場の広告を掲載した。また、協会の主催事業である展示会案内とJR九州の主力観光をセットにしたリーフレットを共同制作し、JR九州管内駅で配布した。

3) 小倉駅北口の振興

ア 北口賑わいづくり事業

主要交通機関の結接点として、優れた機能を有する小倉駅北口地域において、関係企業・団体と連携して、魅力的なイベントなどを企画・開催し、小倉駅北口地区の賑わいづくりに寄与した。

* 総事業数 20 事業

* 総入場者数 178,949 人

イ 小倉駅北口地区振興連絡会

小倉駅北口地区の関連企業等と連携し、小倉駅北口で開催される事業やイベントを紹介する「イベントカレンダー」を製作し、集客増を図った。

また、各々の団体にフラワーポットを配付し、地域の美化活動に取り組んだ。

平成 18 年度からの新規事業として、新たに地区の持続性ある賑わいを創出するためのコンサートイベント「北九州ミュージック & パフォーマンス」をスタートさせた。

4 運営・管理

協会が所有する西日本総合展示場本館と指定管理施設である西日本総合展示場新館及び北九州国際会議場を一体的に管理運営することで、より効果的・効率的な管理運営を実現した。

〔1〕管理業務の効率化

1) サービスの向上

ア 本館利用形態の改善

本館の稼働率を高めるため、スポーツやその他文化活動など幅広く利用できるよう「1日単位」の利用を「半日単位」で貸し出しできるよう制度の改正を行った。

イ 大型プロッター（印刷機）システム導入

場内サイン及び看板制作にあたって、お客様の要望に対し即時対応するため、大型プロッターシステムを導入した。

ウ お客様のニーズ調査

西日本総合展示場及び北九州国際会議場における主催者及び来場者からのアンケート調査を実施し、お客様ニーズの把握を行い、サービス改善に努めた。

2) 管理経費の削減

施設・設備の保守委託、イベント事業委託等の各契約にあたり、複数業者からの価格競争を徹底し、経費の削減を行った。

〔2〕施設の改善

施設、設備の仕様に係る利便性と、来場者へのサービスの向上を図るため、施設、設備の改善、整備を実施した。

1) 本館コンクリート床敷設工事

本館大展示場において、長年の展示会使用により歪みが生じた床面をアスファルト舗装からコンクリート舗装へ改修した。

2) 催事案内システムの導入

「ガレリア（新館展示場とA I Mビル間の通路の名称）」及び新館ロビーに設置し

である案内表示システムについて、老朽化のため更新を行うとともに展示場側地下駐車場エントランスに案内表示板を新設した。

3) 誘導サインの整備

「ガレリア」に新館展示場及び会議室の誘導サインを掲示するとともに、本館及び国際会議場等への誘導サインの整備を行った。

〔3〕稼働率等

1) 西日本総合展示場（本館）の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)	成約高 (億円)
西日本総合展示場 (本館)	103	193	53.6	22	97
西日本総合展示場 (新館)	138	294	81.2	62	108
北九州国際会議場	796	322	89.7	9	-

市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成17年度	平成18年度
出 捐 金 の 状 況	1,750,000	1,750,000
補 助 金	2,000	2,000
委 託 料	819,297	713,069
貸 付 金 残 高	0	0

平成17年度の委託料には、平成17年7月に機能を統合した(財)北九州コンベンションビューローへの委託料(4月～6月分)を含む。

資産・収支の状況（平成 18 年度決算）

1 貸借対照表

平成 19 年 3 月 31 日現在（単位：円）

科 目	合 計	一般会計	付 随 事 業 特 別 会 計	展 示 会 事 業 特 別 会 計	誘 致 支 援 事 業 特 別 計 会	指 定 管 理 者 受 託 事 業 特 別 会 計
資 産 の 部						
流 動 資 産 合 計	566,351,777 (79,060,146)	316,136,513 (79,060,146)	36,944,664	95,395,758	27,837,968	90,036,874
基 本 財 産 合 計	2,477,000,000	2,477,000,000	0	0	0	0
そ 他 固 定 資 産 合 計	587,510,741	582,516,309	4,784,432	210,000	0	0
資 産 合 計	3,630,862,518 (79,060,146)	3,375,652,822 (79,060,146)	41,729,096	95,605,758	27,837,968	90,036,874
負 債 の 部						
流 動 負 債 合 計	444,106,921 (79,060,146)	188,304,557	28,725,170 (2,409,841)	112,461,404 (76,650,305)	25,103,255	89,512,535
固 定 負 債 合 計	79,407,090	79,407,090	0	0	0	0
負 債 合 計	523,514,011 (79,060,146)	267,711,647	28,725,170 (2,409,841)	112,461,404 (76,650,305)	25,103,255	89,512,535
正 味 財 産 の 部						
正 味 財 産	3,107,348,507	3,107,941,175	13,003,926	16,855,646	2,734,713	524,339
〔うち基本金〕	[2,477,000,000]	[2,477,000,000]	[0]	[0]	[0]	[0]
うち当期正味財産増減額	4,173,986	3,690,373	4,789,666	5,881,393	1,051,001	524,339
負債及び正味財産合計	3,630,862,518 (79,060,146)	3,375,652,822	41,729,096 (2,409,841)	95,605,758 (76,650,305)	27,837,968	90,036,874

注記（ ）は内数で内部取引を示す。

2 収支計算書

自 平成 18 年 4 月 1 日

至 平成 19 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目	合 計	一 般 会 計	付 随 事 業 特 別 会 計	展 示 会 事 業 特 別 会 計	誘 致 支 援 事 業 特 別 会 計	指 定 管 理 者 受 託 事 業 特 別 会 計
収 入 の 部						
基本財産運用収入	20,838,153	20,838,153	0	0	0	0
展示場事業収入	87,794,064	87,794,064	0	0	0	0
営 業 収 入	76,723,720	0	76,723,720	0	0	0
展示会事業収入	222,042,750	0	0	222,042,750	0	0
補助金等収入	7,006,507	0	0	7,006,507	0	0
誘致支援受託金等収入	113,203,967	0	0	0	113,203,967	0
指定管理者受託金収入	625,183,887	0	0	0	0	625,183,887
負 担 金 収 入	17,990,251	17,990,251	0	0	0	0
会 費 収 入	7,791,000	7,791,000	0	0	0	0
雑 収 入	34,970,863	22,434,108	0	11,463,294	1,073,461	0
固定資産売却収入	547,897,500	547,897,500	0	0	0	0
特定預金取崩収入	539,747,315	539,747,315	0	0	0	0
繰 入 金 収 入	28,775,645	28,775,645	0	0	0	0
当期収入合計 (A)	2,329,965,622	1,273,268,036	76,723,720	240,512,551	114,277,428	625,183,887
前期繰越収支差額	117,506,166	120,619,750	6,386,957	11,184,253	1,683,712	0
収 入 合 計 (B)	2,447,471,788	1,393,887,786	83,110,677	229,328,298	115,961,140	625,183,887
支 出 の 部						
管 理 費	151,075,078	151,075,078	0	0	0	0
営 業 費 用	62,978,903	0	62,978,903	0	0	0
展示会開催費	244,450,579	0	0	244,450,579	0	0
誘致支援事業費	113,226,427	0	0	0	113,226,427	0
指定管理者事業費	609,659,548	0	0	0	0	609,659,548
営 業 外 費 用	80,000	0	40,000	40,000	0	0
固定資産取得支出	882,006,991	882,006,991	0	0	0	0
特定預金支出	232,973,761	232,973,761	0	0	0	0
繰 入 金 支 出	28,775,645	0	11,872,280	1,903,365	0	15,000,000
当期支出合計 (C)	2,325,226,932	1,266,055,830	74,891,183	246,393,944	113,226,427	624,659,548
当期収支差額(A)-(C)	4,738,690	7,212,206	1,832,537	5,881,393	1,051,001	524,339
次期繰越収支差額(B)-(C)	122,244,856	127,831,956	8,219,494	17,065,646	2,734,713	524,339